

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

平均枝肉重量の増加により牛肉生産量はわずかに増加

24年5月の牛肉生産量は前年同月比0.9%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年5月の牛と畜頭数は269万7000頭（前年同月比3.2%減）とやや減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は、386.5キログラム（同4.4%増）とやや増加した（図1）。と畜ペースの遅れに伴う肥育期間の長期化が進む中で、一部の食肉処理加工業者は枝肉重量超過にかかる取引価格の割引を見送るなど、長期肥育に対するインセンティブ（動機付け）を高めているとされる。この結果、同月の牛肉生産量は105万5000トン（同0.9%増）とわずかに増加した（図2）。また、1～5月の累計では507万5000トン（前年同期比0.1%減）となった。

図1 平均枝肉重量の推移

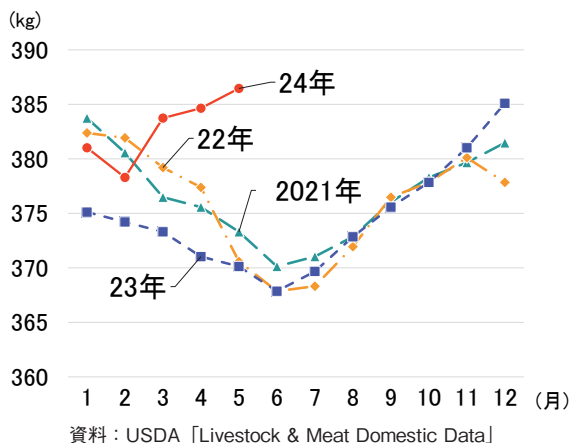
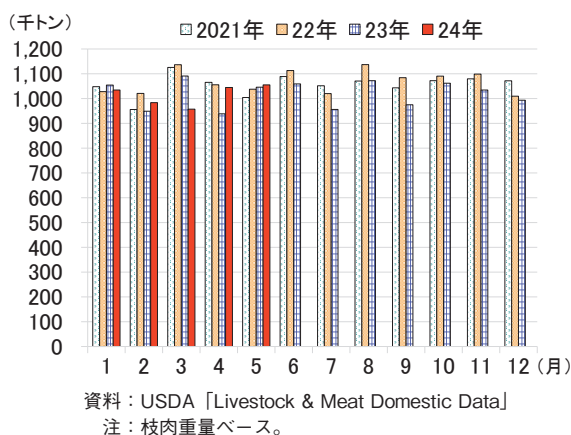


図2 牛肉生産量の推移



また、5月のフィードロット導入頭数は204万6000頭（前年同月比4.3%増）とやや増加し、出荷頭数は195万5000頭（同0.2%増）と前年同月並みで推移した。この結果、6月1日時点のフィードロット飼養頭数は1158万3000頭（前年同日比0.1%減）となった。

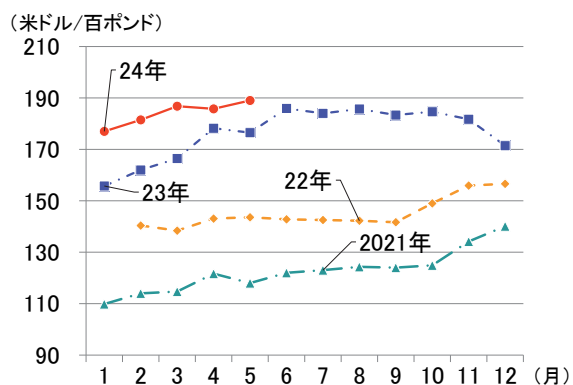
24年5月の肥育牛価格、前年同月比7.1%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年5月の肥育牛価格は、100ポンド当たり189.02米ドル（1キログラム当たり675円：1米ドル＝162.07円^{（注1）}、前年同月比7.1%高）とかなりの程度上昇した（図3）。4～5月に牛肉生産量は増加

しているものの、堅調な牛肉需要が高値を支えているとされる。同月の牛肉卸売価格(カットアウトバリュー^(注2))は、同304.58米ドル(同1088円、同0.1%高)となった。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。
(注2) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

24年4月の牛肉輸出量は前年同月比3.0%減

USDA/ERSによると、2024年4月の牛肉輸出量は11万7717トン（前年同月比3.0%減）、同年1～4月の累計では45万111トン（前年同期比5.2%減）と、いずれもやや減少した（表）。

4月の輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは堅調な外食需要から2万5249トン（前年同月比7.9%増）とかなりの程度増加し、メキシコ向けはペソ高と旺盛な外食、小売需要により1万3469トン（同36.9%増）と大幅に増加した。一方、ドル高の影響からアジア地域の需要は減少傾向にあり、韓国向けは2万4836トン（同19.7%減）、中国向けは1万9781トン（同9.8%減）と、いずれも減少した。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 4月	24年 4月	前年同月比 (増減率)		24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
			増減率	輸出割合		
日本	23,390	25,249	7.9%	21.4%	100,659	▲6.7%
韓国	30,944	24,836	▲19.7%	21.1%	97,414	▲11.9%
中国	21,940	19,781	▲9.8%	16.8%	72,070	▲8.1%
メキシコ	9,842	13,469	36.9%	11.4%	52,771	17.2%
カナダ	9,452	9,742	3.1%	8.3%	35,145	▲1.1%
台湾	7,890	7,615	▲3.5%	6.5%	24,719	▲13.5%
フィリピン	1,664	2,285	37.3%	1.9%	7,073	9.6%
その他	16,262	14,740	▲9.4%	12.5%	60,261	▲3.3%
合計	121,384	117,717	▲3.0%	100.0%	450,111	▲5.2%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

豪州

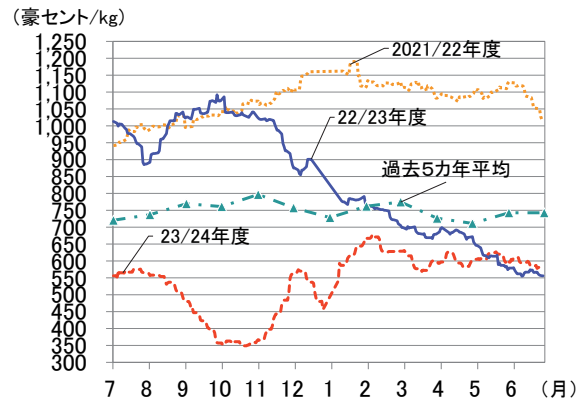
24年6月の肉牛価格、一部の乾燥気候を背景に下落傾向で推移

24年6月の肉牛価格、下落傾向で推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2024年5月以降、緩やかな下落傾向が続いており、直近7月1日は1キログラム当たり581豪セント（633円：1豪ドル＝109.00円^{（注1）}）となった（図1）。現地報道によると、ビクトリア州などで乾燥した気候が続き、牧草生育への影響が懸念されることから、牧草肥育農家のもと牛導入意欲が低下し、EYCI価格下落の一因になったとされている（図2）。一方、豪州気象局（BOM）は、24年後半にも豪州の大部分で多雨をもたらすラニーニャ現象発生の可能性を示唆しており、EYCI価格に影響する今後の気象動向が注目されている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

24年6月の週間成牛と畜頭数、引き続き高水準で推移

2024年6月の週間成牛と畜頭数は引き続き高水準で推移しており、同月第3週時点では14万2390頭と、20年1月以来、4年半ぶりとなると畜頭数を記録した（図3）。旺盛な輸出需要などがと畜頭数の伸びを後押ししている。

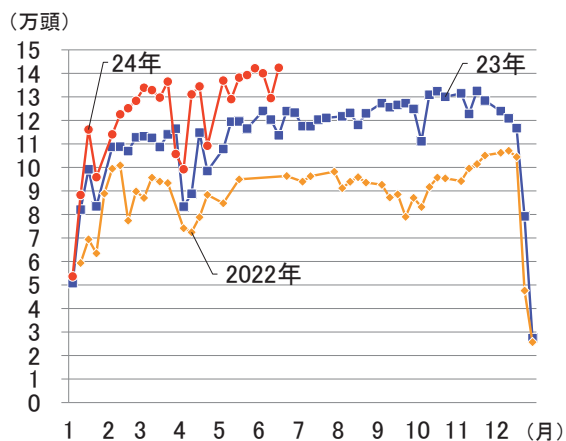
図2 降雨不足分布図（2024年4～6月平均）



資料：BOM「Recent and historical rainfall maps」を基に機構作成

注：基準値は1900年から2024年6月までの平均値。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

24年5月の牛肉輸出、米国および日本向けが牽引

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年5月の牛肉輸出量は11万3923トン（前年同月比24.5%増）と大幅に増加し、19年12月以来の水準となった（表）。

この輸出増を牽引しているのは、主に米国向けと日本向けである。同月の米国向けは、米国内の牛肉生産量減少を受け、3万1294トン（同74.3%増）と輸出量全体の27.5%

を占めた。また、日本向けも2万5435トン（同31.3%増）と大幅に増加している。米国向けについては、主にハンバーガー用の冷凍の牧草肥育牛肉が輸出されている一方、日本向けについては、24年1～3月期の穀物肥育牛肉の39%が仕向けられるなど、穀物肥育牛肉の主要輸出先となっている（注2）。

一方、中国向けは、国内の景気後退などが影響し、1万5359トン（同21.5%減）と大幅に減少した。このような中で、中国政府は24年5月末、過去数年間にわたり豪州の食肉処理加工施設に課していた輸入停止措置を解除（7カ所中5カ所）した。現地報道によると、従前より中国は成長促進ホルモン（HGP）未接種の牛肉のみを輸入しているため、食肉大手のJBS社を始め、今回の解除対象となった食肉処理加工施設を所有する大手食肉企業各社は、解除を見越して年初ごろから非HGP牛肉対応プログラムを開始していたとされており、今後の中国向け牛肉輸出量回復の可能性も示唆されている。

（注2）海外情報「フィードロット飼養頭数、史上初めて130万頭を突破（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003823.html）をご参照ください。

表 輸出先国別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 （増減率）	24年 （1～5月）	前年同期比 （増減率）
米国	17,957	31,294	74.3%	126,683	85.1%
日本	19,366	25,435	31.3%	108,299	29.4%
韓国	15,648	17,096	9.3%	73,377	1.0%
中国	19,569	15,359	▲ 21.5%	76,588	▲ 3.5%
東南アジア	9,143	11,572	26.6%	53,175	25.9%
中東	2,546	3,209	26.0%	14,945	45.6%
E U	950	1,281	34.8%	5,435	82.2%
その他	6,298	8,677	37.8%	36,779	48.3%
輸出量合計	91,479	113,923	24.5%	495,282	28.9%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

（調査情報部 国際調査グループ）

アルゼンチン

24年1～5月の牛肉生産量は前年同期比で減少、一方、輸出量は増加

24年1～5月の牛肉生産量、と畜頭数の減少から前年同期比7.8%減少

アルゼンチン経済省によると、2024年1～5月の牛と畜頭数は551万3000頭（前年同期比8.3%減）、牛肉生産量は125万5000トン（同7.8%減）といずれも前年同期をかなりの程度下回った（図1）。これは、23年に70年ぶりといわれる厳しい干ばつに見舞われ、淘汰が進みと畜頭数が増加した結果、24年にと畜対象となる個体数の減少につながったことに加え、天候の回復に伴う飼養環境の改善から、肉用牛生産者による牛の保留傾向が強まったためとみられる。また、この間にと畜した1頭当たり平均枝肉重量は、227.5キログラム（同0.6%増）となった。

国家農畜産品衛生品質管理機構（SENASA）によると、23年12月31日現在の牛飼養頭数は5278万4000頭（前年同日比2.7%減）と前年同日をわずかに下回り、前年と比べ145万9000頭減少した。23年末時点では厳しい干ばつの影響で飼養頭数の減少が見

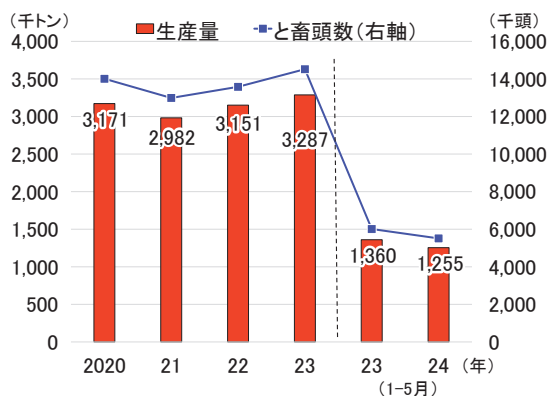
込まれたが、当初予測より減少幅が縮小している。これは、繁殖効率の改善により子牛の出生率が上昇し、子牛飼養頭数の減少が小幅にとどまったためとされている。

24年1～5月の牛肉輸出量は増加、輸出単価は引き続き下落傾向で推移

アルゼンチン国家統計院（INDEC）によると、2024年1～5月の牛肉輸出量は30万8379トン（前年同期比12.7%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表）。同国は23年12月、国内で需要の高い7品目の輸出禁止措置を解除したことも、輸出増を後押ししたとみられる。一方、輸出単価は、1トン当たり3791米ドル（61万4407円：1米ドル＝162.07円^{（注1）}、同10.8%安）とかなりの程度下落したため、輸出額（同0.4%増）はわずかな増加にとどまった。

輸出先別に見ると、輸出量全体の8割弱を占める中国向けは23万9176トン（同9.1%増）とかなりの程度増加したが、輸出単価は同2812米ドル（45万5741円、同16.3%安）と前年同期を大幅に下回った。これは、中国経済の動向が不透明な中で、酪農由来の牛と畜頭数の増加などによる牛肉需給の緩和に加え、豪州産牛肉などとの競合により、取引価格の下落につながったためとされている。中国向け輸出単価は、22年5～11月にかけて4割下落し、その後も低下傾向で推移している（図2）。こうした中でアルゼンチンの牛肉業界は、中国向けの輸出依存度が高い状況に警戒を強めており、輸出市場の多様化を模索している。他の主要輸出先であるイスラエル

図1 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：アルゼンチン経済省
注：枝肉重量ベース。

および米国向けや、23年に輸出が再開された
メキシコ向けは、いずれも前年同期を上回った。

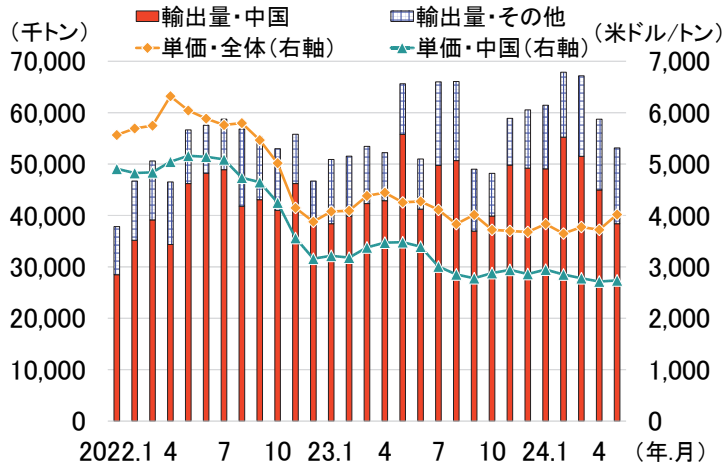
(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・
月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

表 牛肉輸出量および輸出額

	2023年1～5月			24年1～5月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	219,227	736,266	3,358	239,176	672,544	2,812	9.1%	▲ 8.7%	▲ 16.3%
イスラエル	15,552	94,576	6,081	17,505	100,614	5,748	12.6%	6.4%	▲ 5.5%
米国	7,887	44,015	5,581	12,786	69,660	5,448	62.1%	58.3%	▲ 2.4%
ドイツ	10,173	107,510	10,568	9,429	96,655	10,251	▲ 7.3%	▲ 10.1%	▲ 3.0%
チリ	7,394	54,270	7,340	9,048	60,556	6,693	22.4%	11.6%	▲ 8.8%
オランダ	7,671	71,411	9,309	6,279	62,201	9,906	▲ 18.1%	▲ 12.9%	6.4%
ブラジル	2,313	21,613	9,344	2,951	29,580	10,024	27.6%	36.9%	7.3%
ロシア	247	948	3,838	2,878	12,166	4,227	1065.2% （約12倍）	1183.2% （約13倍）	10.1%
メキシコ	5	61	12,261	2,551	12,935	5,071	50920.0% （約510倍）	21000.5% （約211倍）	▲ 58.6%
その他	3,246	33,255	10,245	5,776	52,237	9,044	77.9%	57.1%	▲ 11.7%
合計	273,715	1,163,924	4,252	308,379	1,169,149	3,791	12.7%	0.4%	▲ 10.8%

資料：INDEC
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

図2 牛肉輸出量および輸出単価



資料：INDEC
注：製品重量ベース。

24年5月の肥育牛（去勢）出荷価格、
前年同月比3.9倍に上昇

同国の肉用牛相対取引の指標となるアグロ
ガナデロ家畜市場の2024年5月の肥育牛
（去勢）出荷価格は、1キログラム当たり
1777.35ペソ（320円：1ペソ＝0.18円^{（注2）}）

と、前年同月比294.1%増（約3.9倍）となっ
た（図3）。これは、不安定な経済状況を反
映した急激なインフレに加え、23年12月
12日に実施された50%を超える公式為替
レート切り下げなどの影響とみられる。

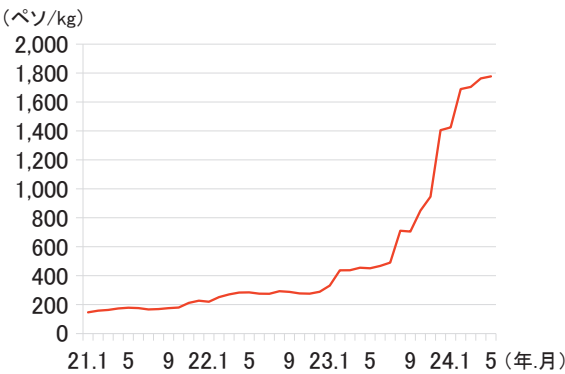
アルゼンチンでは同年12月10日に新政権
が発足し、インフレや債務再編など同国経済

が抱える諸問題の原因である慢性的な財政赤字問題の解決に着手した。

24年5月の消費者物価指数（CPI）は前月比4.2%増となり、前月比の伸び率は5カ月連続で減速したものの、1～5月の累計上昇率は71.9%となっている。現地報道によると、インフレにより肉用牛生産者は生産資材価格の上昇などで収益性が低下する中、国内消費者の購買力は低迷しているとされる。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図3 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン経済省
注：アグロガナデロ家畜市場における肥育牛（去勢）生体1キログラム当たりの価格。

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

米 国

豚肉卸売価格は高値で推移、1～4月の輸出量はかなりの程度増加

24年6月の豚飼養頭数は前年同日比1.3%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/

NASS）によると、2024年6月1日時点の豚飼養頭数は7449万頭（前年同日比1.3%増）とわずかに増加した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚頭数は601万頭（同3.2%減）

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

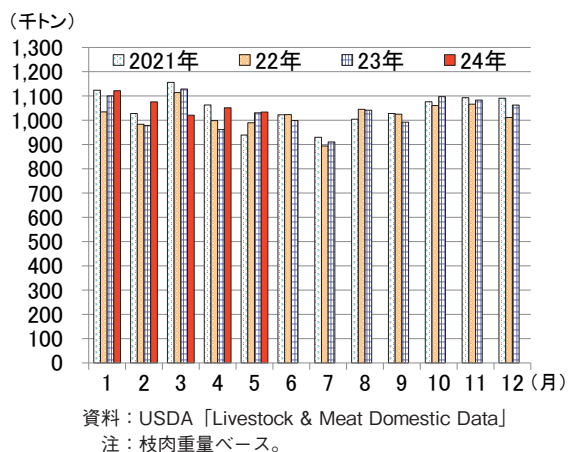
	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（6月1日時点）	72,654	73,551	74,486	1.3%
繁殖豚	6,218	6,206	6,008	▲ 3.2%
肥育豚	66,436	67,345	68,479	1.7%
50ポンド（23キログラム）未満	20,903	21,284	21,589	1.4%
50～119ポンド （23～53キログラム）	18,691	18,982	19,208	1.2%
120～179ポンド （54～81キログラム）	14,117	14,344	14,630	2.0%
180ポンド（82キログラム）以上	12,725	12,735	13,052	2.5%
分娩母豚頭数（3～5月）	2,967	2,941	2,944	0.1%
産子数（3～5月）	32,635	33,414	34,021	1.8%
1腹当たり産子数（3～5月）（頭）	11.00	11.36	11.56	1.8%

資料：USDA「Hogs and Pigs」
注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。
注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

とやや減少したが、肥育豚頭数は6848万頭（同1.7%増）とわずかに増加した。また、1腹当たりの産子数は、24年3～5月期では11.56頭（前年同期比1.8%増）とわずかに増加した。一方で、分娩母豚頭数に関しては、同期に分娩した母豚は294万頭（同0.1%増）と前年並みを維持したが、6～8月期には296万頭（同2.5%減）、9～11月期には295万頭（同0.6%減）とそれぞれわずかな減少が予測されている。

USDA/NASSによると、24年5月の豚肉生産量は103万3600トン（前年同月比0.3%増）と前年並みであった（図1）。24年の豚肉生産量についてUSDAは、引き続き豚肉価格が高く推移することや飼料価格の下落に伴い枝肉重量が増加するため、1274万7760トン（前年比2.9%増）と予測している。

図1 豚肉生産量の推移



24年5月の豚肉卸売価格、前年同月比21.3%高

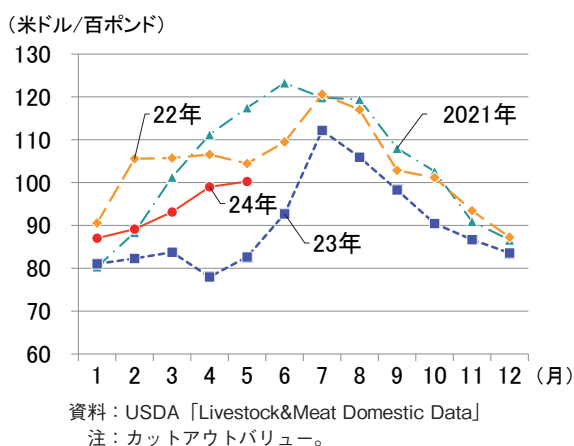
USDA/NASSによると、2024年5月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は100ポンド当たり100.25米ドル（1キログラム当たり358円：1米ドル＝162.07円^{（注2）}、前年同月比21.3%高）と大幅に上昇した（図2）。

これは、継続する牛肉価格の高騰の継続に伴う代替需要の拡大や、堅調な外食需要などを反映したものとされている。また、同月の肥育豚価格も、同66.16米ドル（同236円、同19.5%高）と大幅に上昇した。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

図2 豚肉卸売価格の推移



24年1～4月の豚肉輸出量、前年同期比9.3%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年4月の豚肉輸出量は29万7500トン（前年同月比13.0%増）とかなり大きく増加し、同年1～4月の累計では111万5000トン（前年同期比9.3%増）とかなりの程度増加した（表2）。ラテンアメリカ地域での旺盛な需要が、好調な豚肉輸出を牽引している。1～4月の輸出量を地域別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは、ペソ高もあり40万7200トン（同9.1%増）とかなりの程度増加し、コロンビア向けは5万2000トン（同51.0%増）、豪州向けは4万4500トン（同約2.1倍）とそれぞれ大幅に増加した。また、東アジア地域については、韓国向けが13万4400トン（同44.7%増）と大幅に増加し、日本向け

は17万5200トン（同1.1%増）とわずかに増加した。一方、中国・香港向けについては、中

国国内の豚肉需給の緩和から、6万1800トン（同35.3%減）と大幅に減少した。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2023年 4月	24年 4月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	86.4	112.1	29.7%	37.7%	407.2	9.1%
日本	47.0	49.3	4.8%	16.6%	175.2	1.1%
韓国	30.0	37.2	24.1%	12.5%	134.4	44.7%
カナダ	17.4	16.5	▲4.9%	5.6%	77.9	▲3.9%
中国・香港	26.4	17.7	▲32.9%	5.9%	61.8	▲35.3%
コロンビア	7.4	9.9	34.6%	3.3%	52.0	51.0%
ドミニカ共和国	13.4	10.5	▲21.9%	3.5%	46.0	▲14.5%
豪州	8.3	10.6	27.6%	3.6%	44.5	106.4% (約2.1倍)
ホンジュラス	5.9	7.6	27.8%	2.6%	23.3	7.9%
グアテマラ	2.4	3.6	48.8%	1.2%	13.7	4.5%
その他	18.7	22.5	20.2%	7.6%	79.2	32.9%
合計	263.4	297.5	13.0%	100.0%	1,115.0	9.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 中島 勝紘)

カナダ

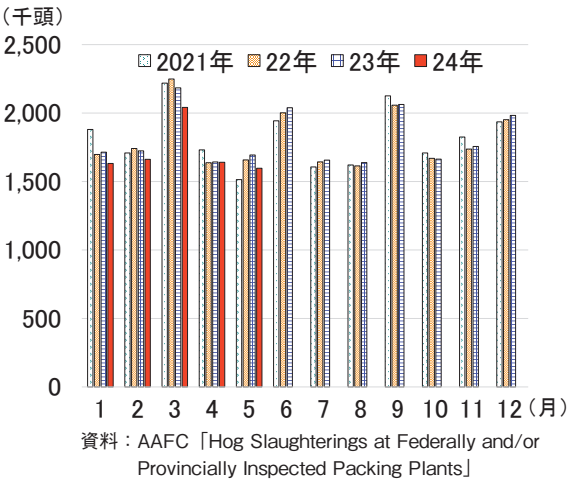
1～4月の豚肉輸出量は中国、米国向けを除き大幅増

24年1～5月の豚と畜頭数、前年同期比4.3%減

カナダ農務・農産食料省（AAFC）によると、2024年5月の豚と畜頭数は160万頭（前年同月比5.7%減）とやや減少した（図1）。また、同年1～5月の累計では857万頭（前年同期比4.3%減）とやや減少した。地域別ではカナダ東部（ケベック州など）が同5.7%減、西部地域（アルバータ州など）が同2.8%減となり、東部でのと畜頭数の減少が顕著となっている。特に東部の主要養豚地域であるケベック州では、大手食肉処理業者

であるオリメル社が一部施設の操業を停止したことから、と畜能力が大幅に低下している。

図1 豚と畜頭数の推移

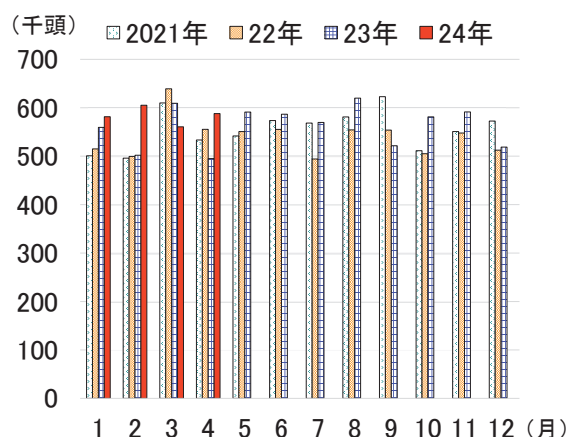


24年の豚肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、と畜頭数が減少（前年比2.5%減）する一方で、上半期（1～6月）にかけての平均枝肉重量の増加により、203万トン（同0.7%減）とわずかな減少にとどまると見込んでいる。

24年 1～4 月の生体豚輸出頭数、前年同期比7.8%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2024年1～4月の生体豚輸出頭数（米国向け）は、234万頭（前年同期比7.8%増）とかなりの程度増加した（図2）。現地報道に

図2 米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：「Statistics Canada」
注：HSコード0103。

よると、カナダ東部でのと畜能力の低下に加え、米国内の相場高や輸送費の低減による収益性の向上などが輸出増に作用したとされる。

24年 1～4 月の豚肉輸出量、前年同期比15.9%増

Statistics Canadaによると、2024年4月の豚肉輸出量は10万100トン（前年同月比23.1%増）と大幅に増加し、同年1～4月の累計では38万7500トン（前年同期比15.9%増）とかなり大きく増加した（表）。国内生産量の減少が見込まれる一方で、競合するEU産豚肉の価格競争力の低下などが中国以外のアジア地域への輸出増に寄与している。

同期間の豚肉輸出量を輸出先別に見ると、米国向けが9万4900トン（同3.4%減）とやや減少し、中国向けは国内生産の増加などにより3万5800トン（同43.4%減）と大幅に減少した。一方、日本向けは8万6700トン（同73.5%増）、韓国向けは3万600トン（同83.3%増）といずれも大幅に増加し、同期間としては過去最高水準となった。その他、メキシコ向けが4万8500トン

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2023年 4 月	24年 4 月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～4 月)	前年同期比 (増減率)
米国	21.8	22.9	5.0%	22.9%	94.9	▲3.4%
日本	11.5	19.3	67.5%	19.3%	86.7	73.5%
メキシコ	4.4	17.3	297.1% (約4.0倍)	17.3%	48.5	34.7%
中国	17.3	8.2	▲52.5%	8.2%	35.8	▲43.4%
フィリピン	8.7	10.8	24.0%	10.8%	37.0	30.3%
韓国	5.6	8.0	44.7%	8.0%	30.6	83.3%
その他	12.1	13.6	12.4%	13.5%	54.2	29.4%
合計	81.3	100.1	23.1%	100.0%	387.5	15.9%

資料：「Statistics Canada」
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

(同34.7%増)、フィリピン向けが3万7000トン(同30.3%増)と大幅に増加した。

一方、同期間(24年1～4月)の豚肉輸入量は、主要輸入先である米国やEUからの

輸入減により、4万6642トン(同14.0%減)とかなり大きく減少した。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

E U

豚肉生産量、3カ月ぶりに前年同月を下回る

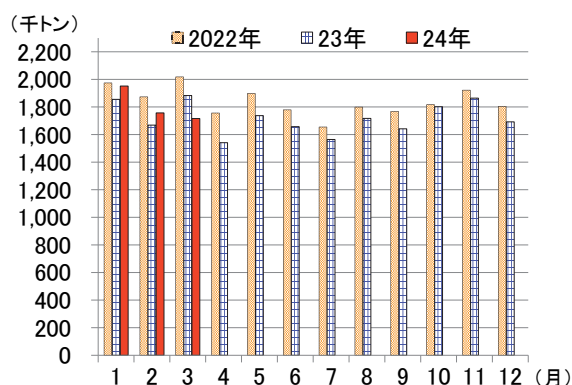
24年第1四半期の豚肉生産量、前年同期比0.3%増

欧州委員会によると、2024年3月の豚肉生産量(EU27カ国)は、171万6070トン(前年同月比8.9%減)とかなりの程度減少した(図1)。同月の1頭当たり枝肉重量は95.70キログラム(同1.3%増)とわずかに増加したものの、と畜頭数が1793万頭(同10.0%減)とかなりの程度減少したことが影響した。24年第1四半期(1～3月)の豚肉生産量は、542万4410トン(前年同期比0.3%増)と前年並みであった。

第1四半期の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、ドイツ(同1.0%増)やポーランド(同6.9%増)は増加したものの、スペイン(同

0.5%減)やデンマーク(同5.9%減)では減少した(表1)。スペインは中国向け輸出の減退に加え、23年3月から同国政府が実施しているアニマルウェルフェア規制厳格化の影響により、と畜頭数が減少した。また、

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

	2023年 3月	24年 3月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	436	380	▲ 12.8%	1,316	▲ 0.5%
ドイツ	376	347	▲ 7.8%	1,069	1.0%
フランス	186	170	▲ 8.6%	535	0.8%
ポーランド	173	166	▲ 4.1%	485	6.9%
オランダ	139	127	▲ 8.6%	389	▲ 1.6%
デンマーク	122	103	▲ 15.8%	344	▲ 5.9%
イタリア	109	107	▲ 1.8%	317	▲ 0.3%
その他	342	316	▲ 7.5%	970	0.8%
合計	1,883	1,716	▲ 8.9%	5,424	0.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」

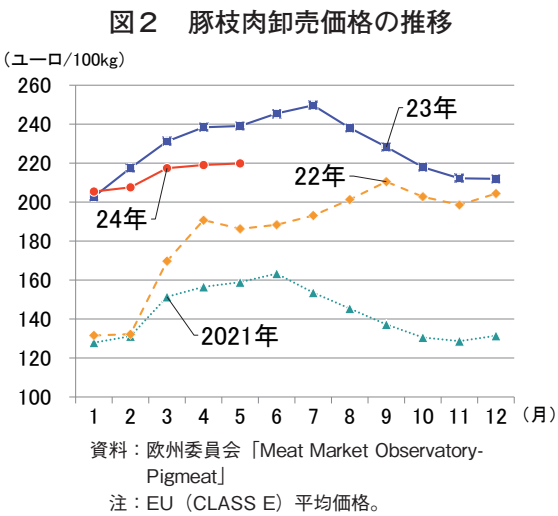
注：枝肉重量ベース。

生産量に占める輸出量の割合が大きいデンマークは、価格競争力の低下を背景とした輸出需要の減少や食肉処理場の閉鎖などにより生産量が減少した。

24年5月の豚枝肉卸売価格、横ばいが続く

欧州委員会によると、2024年5月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比8.0%安の100キログラム当たり219.86ユーロ（3万8218円：1ユーロ＝173.83円^{（注）}）となった（図2）。温暖な季節を迎えるにつれて、バーベキューなど屋外需要の増加が期待されるが、冷涼な気候が続いたことで、同価格は前月から横ばいとなった。週別の価格動向を見ると、24年6月も弱含みで推移しており、直近6月10日の週は前週から1.22ユーロ（212円）安の同220.04ユーロ（3万8250円）となった。欧州サッカー選手権の開催など、イベント需要が期待されたドイツでも、直近の価格は同じく弱含みで推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。



24年1～4月の豚肉輸出量、前年同期比12.2%減

欧州委員会によると、2024年1～4月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、67万9623トン（前年同期比12.2%減）とかなり大きく減少した（表2）。域内生産量の減少により価格が高水準にあることで、EU産豚肉の価格競争力が低下している。輸出先別に見ると、23年9月にドイツ産豚肉の輸入を再開した韓国向けなどが上回ったが、最大の輸出先である中国向けなどは下回った。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

	2023年 4月	24年 4月	前年同月比 （増減率）	輸出割合	24年 （1～4月）	前年同期比 （増減率）
中国	46,432	38,611	▲ 16.8%	23.4%	153,664	▲ 34.4%
英国	26,009	28,237	8.6%	17.1%	107,934	0.1%
日本	22,375	23,974	7.1%	14.5%	107,076	▲ 10.6%
韓国	14,832	20,733	39.8%	12.5%	82,358	16.4%
フィリピン	7,908	8,688	9.9%	5.3%	40,367	11.2%
米国	2,840	5,836	105.5%	3.5%	23,620	63.2%
その他	37,972	39,141	3.1%	23.7%	164,604	▲ 13.8%
合計	158,368	165,220	4.3%	100.0%	679,623	▲ 12.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

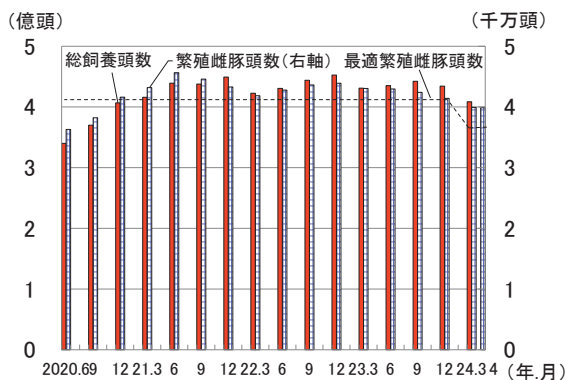
中国

24年4月末の繁殖雌豚頭数は前年同月比7.0%減

24年4月末の繁殖雌豚頭数は前年同月比7.0%減、最適な水準に近づく

中国農業農村部によると、2024年4月末時点の繁殖雌豚頭数は3986万頭（前年同月比7.0%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図1）。同頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭から約2%上回っているものの、23年3月以降は減少傾向にあり、徐々にこの水準に近づいている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

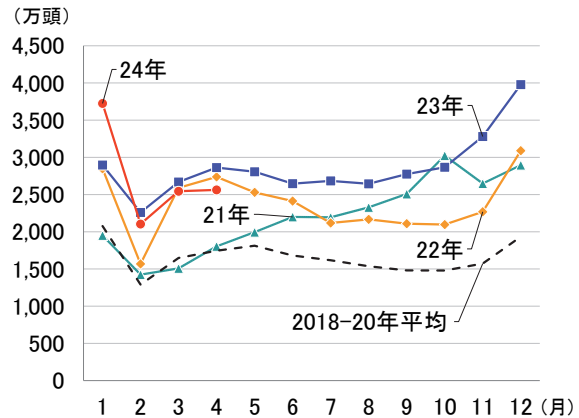
注1：2024年4月のデータ除き四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

24年4月の豚と畜頭数、前年同月比10.5%減

2024年4月の豚と畜頭数は、2563万頭（前年同月比10.5%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。現地報道によると、繁殖母豚飼養頭数の減少に伴う肥育豚飼養頭数の落ち込みが、と畜頭数の減少につながったとされている。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

24年5月の豚肉価格は前年同月比3.8%高

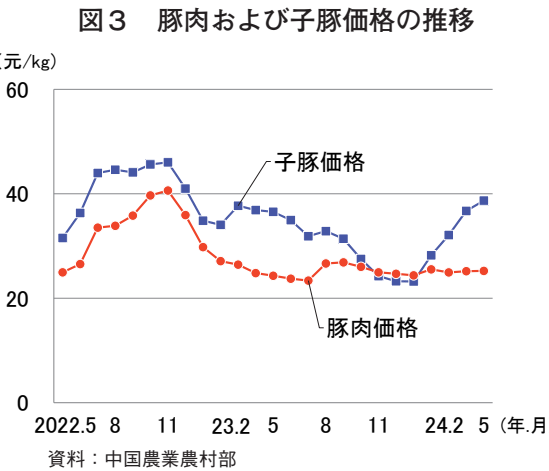
2024年5月の豚肉価格は、前月比0.2%高の1キログラム当たり25.2元（563円：1元＝22.34円^{注1}、前年同月比3.8%高）となった（図3）。現地報道によると、5月は生産者の二次肥育^{注2}意欲が強まり出荷控えが生じたことに加え、主に呼吸器系などの家畜疾病により飼養頭数が減少したことなどから、価格の上昇につながったとみられている。

中国各地での今後の気温上昇に加え、7月初旬ごろから学校などが休みに入り豚肉の末端消費が弱くなるため、豚肉価格の低下が見込まれている。

一方、同月の子豚価格は、前月比5.4%高の同38.7元（865円、前年同月比5.9%高）となった。現地報道によると、通常、二次肥育を行う農家は、肥育豚を購入して再肥育を行うケースが多いが、肥育豚価格の上昇から、これら農家がより安価な子豚を購入して肥育

する動きになったことで、結果的に同月の子豚価格の上昇につながったとされている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。
(注2) 出荷適正体重となった肥育豚を再肥育（購入する場合もあり）し、通常の出荷体重以上に増体させること。生体豚価格の上昇が見込まれる場合に実施されることが多く、ばくち的要素が強い。



24年1～5月の豚肉輸入量は前年同期比47.8%減

2024年1～5月の豚肉輸入量は42万398トン（前年同期比47.8%減）となり、スペインをはじめ、すべての主要輸入先で前年同期を大幅に下回った（表）。現地関係者によると、中国国内の肥育豚供給頭数がアフリカ豚熱（ASF）の発生前を上回り、供給の増加から豚肉価格が低水準で推移し、輸入豚肉の価格優位性が低くなったことが、豚肉輸入量の減少要因とされている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	93.3	109.7	46.9	37.8	11.3	▲ 45.1%
ブラジル	48.0	54.6	41.7	40.2	11.2	▲ 41.0%
カナダ	41.0	23.6	11.4	13.2	3.0	▲ 54.6%
オランダ	26.5	27.7	12.3	12.0	2.9	▲ 58.6%
米国	69.6	39.8	12.6	12.3	2.8	▲ 56.4%
チリ	16.5	13.8	7.2	8.4	2.7	▲ 31.3%
その他	135.3	88.1	42.3	30.1	8.1	▲ 52.0%
合計	430.2	357.3	174.4	154.1	42.0	▲ 47.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 田中 美宇)

鶏 肉

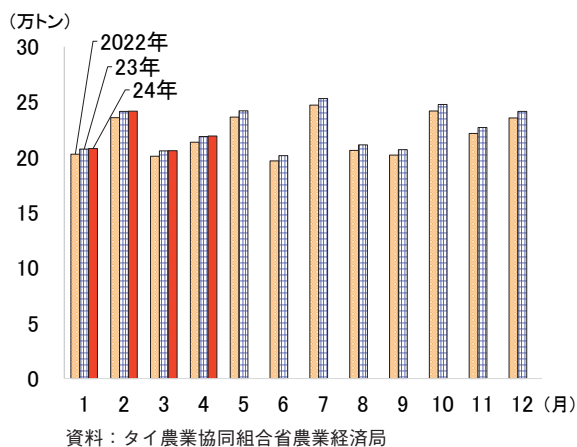
タ イ

24年の鶏肉調製品の輸出量は増加傾向

24年1～4月の鶏肉生産量は前年並み

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2024年1～4月の鶏肉生産量は87万4862トン（前年同期比0.1%増）と前年並みとなった（図1）。

図1 鶏肉生産量の推移



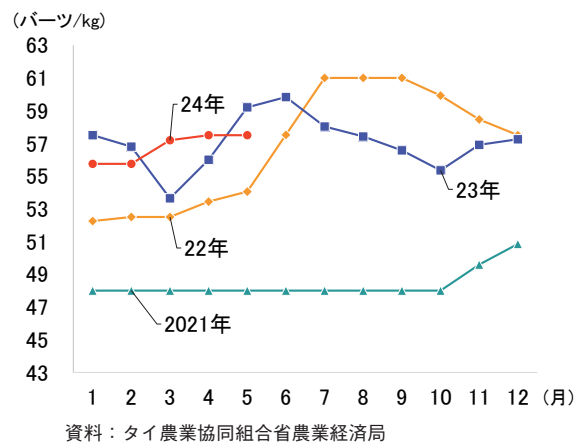
24年5月の鶏肉卸売価格は前年同月比2.9%安

2024年5月の鶏肉卸売価格は、前年同月比2.9%安の1キログラム当たり57.50バーツ（255円：1バーツ＝4.44円^{（注1）}）となった（図2）。現地関係者によると、5月の鶏肉卸売価格は生産費の高騰から高値で推移した前年の水準を下回っているものの、異常気象や飼料価格の高騰から例年に比べて高値で推移している。異常気象の主な影響としては、タイが輸入する肉用鶏は比較的高温に弱いた

め、ここ最近の暑熱により増体率の悪化や事故率が上昇し、出荷に影響が生じていたとされている。直近では気温が下がり始めたため、今後は、飼料価格の高騰が続くものの、増体率の回復から出荷の安定が見込まれることで、価格は徐々に低下するとみられている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



24年1～4月の冷凍鶏肉輸出量は前年同期比8.3%減

2024年1～4月の冷凍鶏肉の輸出量は、15万2007トン（前年同期比8.3%減）と前年同期をかなりの程度下回った（表1）。一方で、輸出先別に見ると、日本向けは外食産業を中心に鶏肉需要の引き合いが強いことから、5万8427トン（同14.8%増）と前年同期をかなり大きく上回った。一方、中国

向けは、中国国内の鶏肉生産量増加などから（減）と前年同期をかなりの程度下回った。引き合いが減少し、3万6686トン（同6.3%

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	15.2	14.3	13.6	16.6	5.8	14.8%
中国	11.5	10.4	8.5	11.5	3.7	▲ 6.3%
マレーシア	4.1	4.7	7.2	9.1	3.1	13.3%
韓国	0.8	1.3	1.2	3.2	1.0	2.8%
シンガポール	0.8	0.1	0.4	0.6	0.3	88.9%
その他	3.4	4.1	4.0	6.2	1.2	▲ 66.1%
合計	35.7	34.9	34.9	47.2	15.2	▲ 8.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

24年1～4月の鶏肉調製品の輸出量は前年同期比13.7%増

2024年1～4月の鶏肉調製品輸出量は、21万2765トン（前年同期比13.7%増）と前年同期をかなり大きく上回った（表2）。日本向けは、為替の影響などがあるものの、引き続き外食や中食・総菜向けなどからの引き合いが強いことから、9万5311トン（同6.9%増）と前年同期をかなりの程度上回っ

た。また、英国向けも6万1923トン（同20.2%増）と前年同期を大幅に上回った。現地関係者によると、英国を含む欧州では、紅海を迂回して喜望峰を経由する輸送ルートになってから、前倒しで輸入する傾向が高まっていることに加え、英国の23/24年度（7月～翌6月）関税割当の消化に向けた駆け込み需要が生じたことなどから、前年同期を上回ったとされている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	29.2	28.8	31.1	28.6	9.5	6.9%
英国	14.2	13.6	17.3	16.1	6.2	20.2%
オランダ	2.8	3.9	5.6	4.1	1.5	9.6%
韓国	2.4	2.1	3.1	2.9	0.9	▲ 3.9%
その他	6.1	6.7	8.1	8.0	3.1	35.4%
合計	54.6	55.0	65.2	59.6	21.3	13.7%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部 田中 美宇）

牛乳・乳製品

E U

24年6月のバター価格、22年後半以来の1トン当たり6000ユーロ超に

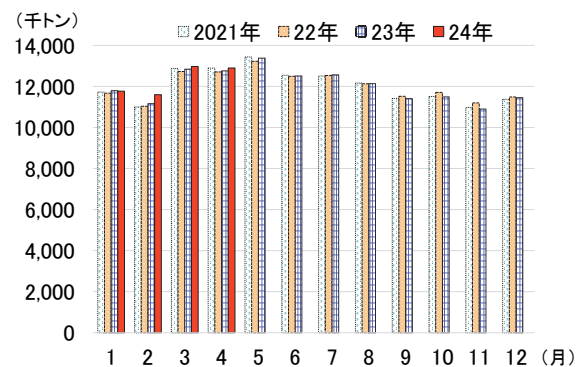
24年4月の生乳出荷量、前年同月比1.1%増

欧州委員会によると、2024年4月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1289万7000トン（前年同月比1.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図1、表1）。主要生産国別に見ると、オランダ（同1.3%減）およびアイルランド（同7.9%減）を除き、前年同月並みか前年同月を上回った。かなりの程度減少したアイルランドは、低温や曇天による牧草の生育不良などから牛の淘汰が進んでいることや、硝酸塩に関する規制（注1）の影響から14カ月連続で前年同月を下回った。他方で、出荷量の増加が続くポーランド（同5.4%増）は、牛枝肉価格高騰の影響などから、前年に比べて乳牛のと畜向け出荷頭数が増加して

いるものの、良好な天候が牧草の生育など放牧環境に寄与したことで、31カ月連続で前年同月を上回った。

（注1）アイルランドでは2024年1月から、一部地域を対象に硝酸塩指令による家畜排せつ物由来の窒素施用量の上限が従来の1ヘクタール当たり年間250キログラムから、同220キログラムに引き下げられた。オランダでは現在同210～230キログラムの上限が、今後26年までに他の加盟国と同じ同170キログラムに引き下げられる。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2023年 4月	24年 4月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,777	2,779	0.1%	10,970	0.3%
フランス	2,106	2,109	0.1%	8,299	1.3%
オランダ	1,192	1,177	▲1.3%	4,687	▲1.1%
ポーランド	1,105	1,166	5.4%	4,566	4.9%
イタリア	1,061	1,153	8.7%	4,576	6.5%
アイルランド	1,059	975	▲7.9%	2,270	▲7.8%
スペイン	636	643	1.1%	2,537	2.2%
デンマーク	479	478	▲0.2%	1,894	0.1%
ベルギー	400	406	1.4%	1,603	1.7%
その他	1,944	2,012	3.5%	7,833	2.7%
合計	12,759	12,897	1.1%	49,234	1.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

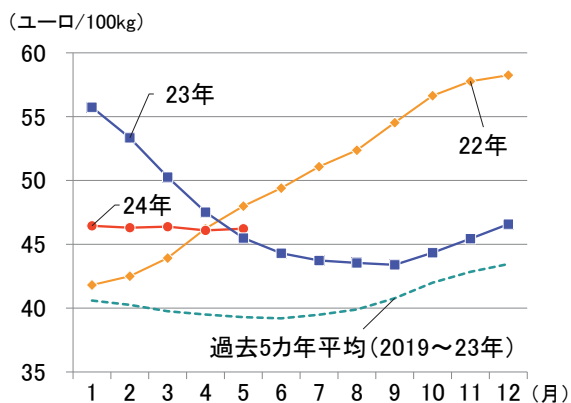
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

24年5月の生乳取引価格、13カ月に前年同月を上回る

欧州委員会によると、2024年5月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.22ユーロ（8034円：1ユーロ＝173.83円^{（注2）}、前年同月比1.6%高）と前年同月をわずかに上回った（図2）。直近の乳製品価格が比較的安定していることに連動し、前月比では0.3%高にあり、5カ月連続で前月並みの水準を維持している。過去5年（19～23年）の各月の平均生乳取引価格と比べると、24年に入りいずれも15%程度高い水準にあり、生乳出荷量の維持に寄与している。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

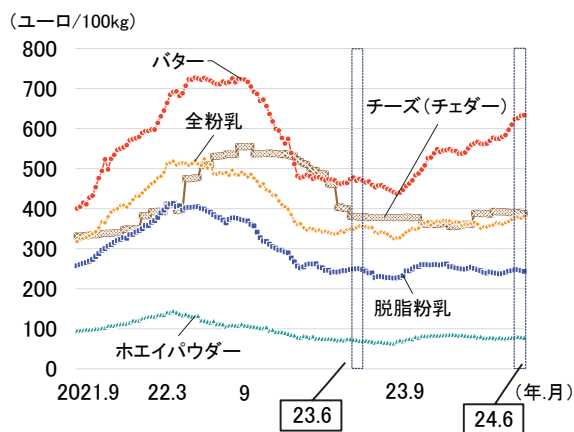
24年6月のバター価格、上昇基調の中で前年同期比34.6%高

欧州委員会によると、2024年6月23日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり633ユーロ（11万34円、前年同期比34.6%高）、全粉

乳が同381ユーロ（6万6229円、同7.3%高）、チーズは同387ユーロ（6万7272円、同2.0%高）、ホエイパウダーが同79ユーロ（1万3733円、同12.2%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。一方、脱脂粉乳は同243ユーロ（4万2241円、同1.8%安）と前年同期をわずかに下回った。

中でもバターは、世界的に需要が好調な中で国際相場は上昇しており、EUの価格も22年後半以来の1トン当たり6000ユーロ（104万2980円）台で推移している。EUでは、チーズ向けの生乳仕向け割合の増加から、バター仕向け量が減少しており、1～4月のバター生産量は前年に比べ減少している。中でもアイルランド（同9.5%減）やオランダ（同5.0%減）は、生乳出荷量の減少に伴うバター生産量の減少が目立っている。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

24年第1四半期のチーズと全粉乳、輸出は安定

欧州委員会によると、2024年第1四半期（1～3月）のEU域外向け乳製品輸出量は、チーズ（前年同期比0.3%増）は前年同期並みとなった（表2）。一方、バター（同4.8%減）、

脱脂粉乳(同11.0%減)はいずれも減少した。

全粉乳の輸出量は、1～2月は前年同月を大幅に上回ったが、3月は輸出競合国のニュージーランドが中東や東南アジア向けを増加させたため、同地域向けをはじめとして

EUの輸出量は前年同月を大幅に下回り（前年同月比21.9%減）、第1四半期はわずかな増加（前年同期比2.5%増）となった。また、バターや脱脂粉乳は、生産量の減少が輸出量の減少に影響した。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

(単位：千トン)

バター				脱脂粉乳				チーズ				全粉乳			
輸出先	2023年 (1～3月)	24年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～3月)	24年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～3月)	24年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～3月)	24年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
米国	14.3	11.3	▲21.0%	アルジェリア	39.7	48.2	21.2%	英国	100.5	99.8	▲0.7%	オマーン	10.5	13.3	26.3%
英国	10.0	11.2	12.5%	エジプト	15.9	12.7	▲20.2%	米国	27.5	31.8	15.5%	中国	3.8	4.8	27.4%
中国	3.2	4.5	40.2%	フィリピン	5.1	12.3	143.3%	日本	21.4	19.5	▲9.1%	クウェート	3.0	4.6	52.9%
サウジアラビア	1.9	3.5	81.2%	サウジアラビア	9.4	10.5	11.2%	スイス	17.3	18.6	7.2%	英国	3.9	3.5	▲10.3%
韓国	3.0	3.1	1.0%	モロッコ	9.3	10.2	9.6%	サウジアラビア	11.7	10.9	▲6.9%	サウジアラビア	1.9	2.1	11.5%
モロッコ	2.4	1.8	▲26.8%	インドネシア	5.9	6.8	15.8%	韓国	13.3	10.4	▲22.1%	セネガル	1.9	1.6	▲12.4%
アラブ首長国連邦	1.4	1.5	8.4%	ナイジェリア	5.3	6.5	22.4%	中国	6.5	8.6	33.4%	ドミニカ共和国	2.9	1.6	▲45.7%
イスラエル	2.5	1.4	▲43.4%	中国	29.6	6.2	▲78.9%	ウクライナ	7.5	8.0	6.3%	シンガポール	2.3	1.5	▲33.3%
その他	24.0	21.5	▲10.7%	その他	89.8	73.5	▲18.2%	その他	115.1	114.5	▲0.5%	その他	24.1	22.6	▲6.4%
合計	62.8	59.7	▲4.8%	合計	210.0	187.0	▲11.0%	合計	321.0	322.1	0.3%	合計	54.3	55.7	2.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により、輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

(調査情報部 渡辺 淳一)

豪州

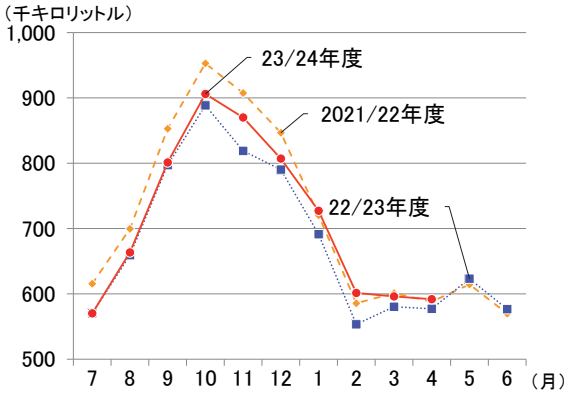
生乳生産量は好調も、生乳需要の低迷を受け次年度乳価は引き下げ

24年4月の生乳生産量は引き続き前年同月を上回る

デイリー・オーストラリア (DA) が2024年5月に公表した「Milk Production Reports」によると、24年4月の生乳生産量は、前年同月比2.5%増の59万1836キロリットル (60万9591トン相当) となり、9カ月連続で前年同月を上回った (図1)。この結果、23/24年度 (7月～翌6月) の4月までの累計生乳生産量は、前年同期比3.0%増の713万4561万キロリットル (734万8598トン相当) となった。

同年度の生乳生産量についてDAは、適時に降雨が得られたことで冬季の飼料確保に見通しがついたとして、24年3月時点の予測

図1 月別生乳生産量の推移



資料：DA

注：年度は7月～翌6月。

(前年度比1%増(821万キロリットル、845万トン相当))を引き上げ、同2～3%増(829万～837万キロリットル、854万～862万トン相当)と見込んでいる。

24/25年度の生産者支払乳価、生乳需要の低迷を受け引き下げ

2023/24年度の生産者支払乳価は、乳業各社による乳量確保の動きから、生乳の固形分^(注1)1キログラム当たり8豪ドル(872円: 1豪ドル=109.0円^(注2))台後半と高値で推移した。

しかし、生乳生産量増加の見通しや消費者の買い控えなどを受けて、24年6月1日までに大手乳業各社が公表した24/25年度の生産者支払乳価は、いずれも前年度からおおむね1割安の同8豪ドル台前半に引き下げられている^(注3)。

(注1) 乳脂肪分および乳タンパク質。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。
(注3) 海外情報「生乳需要の低迷を受け2024/25年度当初乳価を引き下げ提示(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003835.html)をご参照ください。

24年4月の主要乳製品の輸出量、4品目すべてで増加

DAが発表した2024年4月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月を上回った(表、図2)。

脱脂粉乳は、中国向けが大きく減少したものの、インドネシアやマレーシアなど東南アジア向けが大きく増加したことを受け、前年同月比で大幅に増加した。全粉乳は、アラブ首長国連邦向けが大きく減少したものの、タイ向けが大きく増加し、中国やベトナム向けも堅調に推移したことを受け、かなりの程度増加した。バターおよびバターオイルは、韓国やフィリピン向けが低調であったものの、中国や他のアジア向けが好調であったことを受け、大幅に増加した。チーズは、輸出先第1位の日本向けを始め、同第2位の中国や他のアジア向けも堅調に推移したことを受け、大幅に増加した。

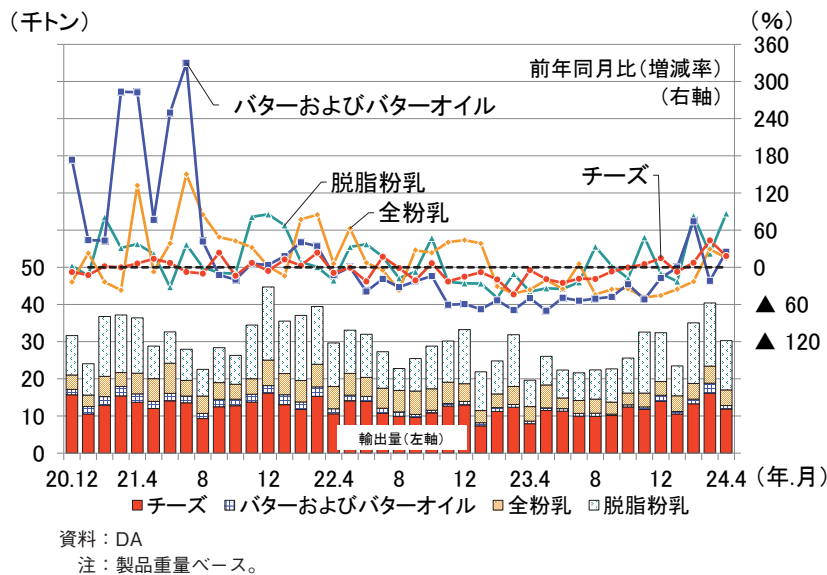
表 乳製品輸出量の推移

(単位: トン)

品目	2023年 4月	24年 4月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌4月)	
				23/24年度 (7月～翌4月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	7,097	13,266	86.9%	117,858	15.7%
全粉乳	3,906	4,194	7.4%	38,286	▲22.5%
バターおよびバターオイル	693	933	34.7%	10,483	15.9%
チーズ	7,923	11,882	50.0%	119,836	13.6%

資料: DA
注: 製品重量ベース。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



（調査情報部 平山 宗幸）

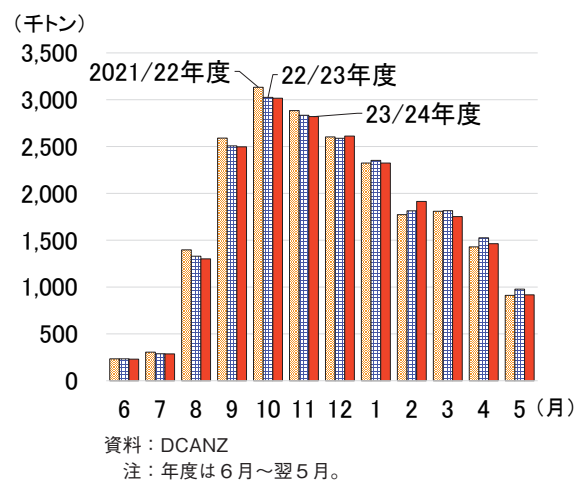
N Z

生乳生産量は回復の兆し、GDT平均取引価格は乳脂肪と乳タンパク質で明暗

24年5月の生乳生産量、3カ月連続下落も回復の兆し

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年5月の生乳生産量は91万7000トン（前年同月比6.2%減）とかなりの程度減少し、3カ月連続で前年同月を下回った（図1）。この結果、23/24年度（6月～翌5月）の累計でも、2113万2000トン（前年度比0.7%減）とわずかに減少した。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、引き続き乾燥した気候による牧草の生育不足の影響としている。一方で、乾燥により遅れていた放牧地への施肥は一定程度進み、今後は降雨量が増えると予測されていることから、24/25年度の始期となる6月には、生乳生産量は上向きに転じると予測している。

図1 生乳生産量の推移



24年5月の乳製品輸出品、主要3品目で引き続き減少傾向

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年5月の乳製品輸出品は、前月から減少幅は縮小したもの、主要3品目で引き続き前年同月を下回った（表、図2）。

品目別に見ると、脱脂粉乳は主要輸出先の中国やインドネシア向けは増加したものの、中東向けなどの減少が影響し、前年同月比8.3%減となった。全粉乳は、最大の輸出先である中国向けを中心とした減少から、同8.3%減となった。また、バターおよびバターオイルは、主要輸出先の豪州やサウジアラビア向けの減少から、同14.2%減となった。チーズは、最大の輸出先である中国向けは減少したものの、23年に二国間FTA^(注1)が

発効している英国向けが大きく伸びた（前月比：132.3%増、前年同月比：実績なし）ことで、同3.3%増となった。英国向けのチーズは、段階的に無税枠数量が引き上げられ、発効5年目で関税は完全に撤廃されるため、今後さらに伸びる可能性がある。

(注1) 海外情報「豪英FTAおよびNZ英FTAが5月31日に発効（その2：豪州およびニュージーランド側の反応）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003535.html) をご参照ください。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌5月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	38,890	35,654	▲ 8.3%	410,334	4.2%
全粉乳	145,844	133,755	▲ 8.3%	1,345,959	7.3%
バターおよびバターオイル	44,016	37,761	▲ 14.2%	419,905	▲ 2.0%
チーズ	36,852	38,069	3.3%	335,094	▲ 1.2%

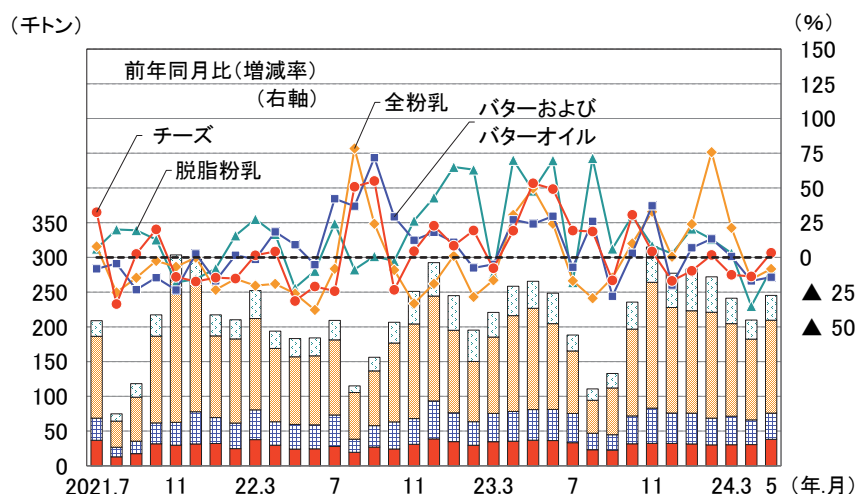
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

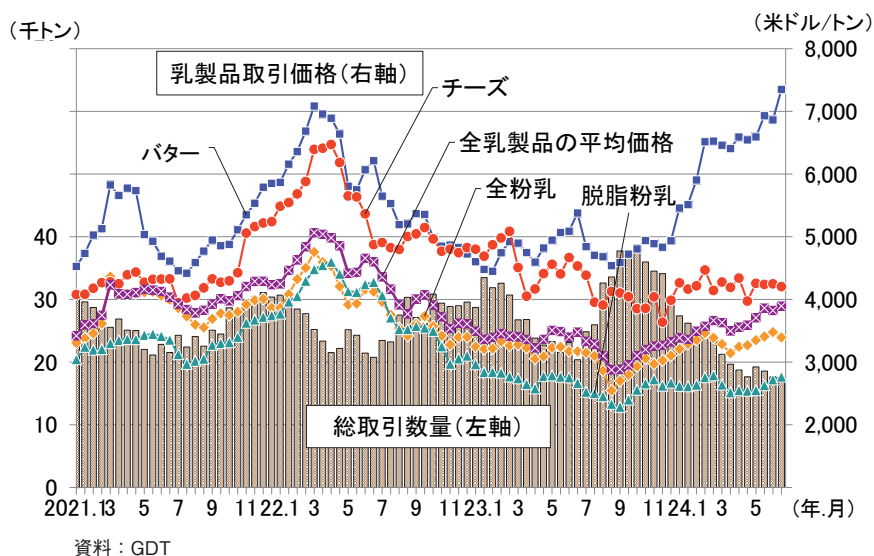
24年6月中旬のGDT平均価格、バターが7.1%高

2024年6月18日開催のGDT^(注2) 平均取引価格は、脱脂粉乳とバターが前回開催時(同年6月4日)を上回り、特にバターはアジアや北アフリカからの旺盛な需要により、7350米ドル(119万1215円：1米ドル＝162.07円^(注3)、前回比7.1%高)と22年3月以来の記録的な高値となった(図3)。この結果、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3893米ドル(63万0939円、前回比1.8%高)とわずかに上昇した。現地報道に

よると、乳脂肪への旺盛な需要は、NZの生産者支払乳価の上昇に少なからず貢献しているとされている。一方、農協系金融機関ラボバンクが公表した最新の酪農市場レポートでは、中国の乳製品自給率の向上が近年の粉乳類の国際価格低迷の要因と分析しており、NZは中国に代わる輸出市場の開拓をさらに進めるべきとしている。

(注2) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 渡部 卓人)

飼料穀物

世界

生産量、期末在庫は引き続き微減も高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2024年6月12日、2024/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億2054万トン（前年度比0.6%減）と、前月から61万トン上方修正された。生産量上位4カ国である米国、中国、ブラジルおよびアルゼンチンはいずれも前月から据え置かれたが、ウクライナ（前月から70万トン上方修正）などの増加分が、ロシア（同60万トン下方修正）の減少分を上回った。

輸入量は、世界全体で1億8616万トン（同0.2%減）と前月から179万トン上方修正された。主要国はいずれも据え置かれたが、ザンビアやマラウイなどアフリカ南部の国での増加が反映された。

消費量は、世界全体で12億2216万トン（同0.5%増）と前月から141万トン上方修正された。このうち、2大消費国の中国と米国はいずれも前月から据え置かれたが、ウクライナ（前月から20万トン上方修正）やEU（同10万トン上方修正）などでわずかに上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億9175万トン（同3.7%減）と前月から65万トン上方修正された。米国、ブラジルおよびアルゼンチンの輸出上位3カ国はいずれも据え置かれたが、ウクライナ（前月から50万トン上方修正）などの増加分がロシア（同20万トン下方修正）の減少分を上回った。

この結果、期末在庫は3億1077万トン（同0.5%減）と前月から150万トン下方修正されたが、引き続き高水準を維持すると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2024年6月12日USDA公表）

（単位：百万トン）

	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			
			(5 月 予測)	(6 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国						
	期首在庫	34.98	34.55	51.36	51.36	48.7%
	生産量	346.74	389.69	377.46	377.46	▲ 3.1%
	輸入量	0.98	0.64	0.64	0.64	0.0%
	消費量	305.95	318.91	320.18	320.18	0.4%
	輸出量	42.20	54.61	55.88	55.88	2.3%
	期末在庫	34.55	51.36	53.39	53.39	4.0%
ブラジル						
	期首在庫	3.97	10.04	3.84	3.84	▲ 61.8%
	生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
	消費量	78.00	79.50	80.50	80.50	1.3%
	輸出量	54.26	50.00	49.00	49.00	▲ 2.0%
	期末在庫	10.04	3.84	2.84	2.84	▲ 26.0%
アルゼンチン						
	期首在庫	4.75	1.32	1.54	1.54	16.7%
	生産量	36.00	53.00	51.00	51.00	▲ 3.8%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
	消費量	14.20	14.80	14.80	14.80	0.0%
	輸出量	25.24	38.00	36.00	36.00	▲ 5.3%
	期末在庫	1.32	1.54	1.74	1.74	13.0%
ウクライナ						
	期首在庫	7.80	2.80	2.91	2.91	3.9%
	生産量	27.00	31.00	27.00	27.70	▲ 10.6%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	4.90	4.90	4.45	4.65	▲ 5.1%
	輸出量	27.12	26.00	24.00	24.50	▲ 5.8%
	期末在庫	2.80	2.91	1.48	1.48	▲ 49.1%
EU						
	期首在庫	11.51	7.69	7.51	7.59	▲ 1.3%
	生産量	52.29	61.00	64.80	64.80	6.2%
	輸入量	23.19	21.00	18.00	18.00	▲ 14.3%
	消費量	75.10	77.70	78.60	78.70	1.3%
	輸出量	4.20	4.40	4.20	4.20	▲ 4.5%
	期末在庫	7.69	7.59	7.51	7.49	▲ 1.3%
中国						
	期首在庫	209.14	206.04	210.86	210.86	2.3%
	生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
	輸入量	18.71	23.00	23.00	23.00	0.0%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	206.04	210.86	212.84	212.84	0.9%
世界計						
	期首在庫	313.73	300.94	313.08	312.39	3.8%
	生産量	1157.95	1228.10	1219.93	1220.54	▲ 0.6%
	輸入量	173.37	186.58	184.37	186.16	▲ 0.2%
	消費量	1170.75	1216.65	1220.75	1222.16	0.5%
	輸出量	180.34	199.11	191.10	191.75	▲ 3.7%
	期末在庫	300.94	312.39	312.27	310.77	▲ 0.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 岡田 真希奈）

主要国での生産増などから、 大豆期末在庫は大幅増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2024年6月12日、2024/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した (表)。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2226万トン (前年度比6.7%増) と前月から据え置かれた。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン

表 主要国の大豆需給見通し (2024年6月12日USDA公表)

(単位: 百万トン)

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(5月予測)	(6月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.26	9.53	32.5%
生産量	116.22	113.34	121.11	121.11	6.9%
輸入量	0.67	0.68	0.41	0.41	▲ 39.7%
消費量	60.20	62.32	66.00	66.00	5.9%
輸出量	54.21	46.27	49.67	49.67	7.3%
期末在庫	7.19	9.53	12.11	12.38	29.9%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	31.42	30.57	▲ 17.0%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.60	0.15	0.15	▲ 75.0%
消費量	53.41	54.00	54.00	54.00	0.0%
輸出量	95.50	102.00	105.00	105.00	2.9%
期末在庫	36.82	30.57	37.47	36.62	19.8%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	26.15	26.15	53.8%
生産量	25.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
輸入量	9.06	6.50	5.50	5.50	▲ 15.4%
消費量	30.32	35.50	40.00	40.00	12.7%
輸出量	4.19	4.60	5.50	5.50	19.6%
期末在庫	17.00	26.15	29.55	29.55	13.0%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	36.38	36.38	12.5%
生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲ 0.7%
輸入量	104.50	105.00	109.00	109.00	3.8%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	32.34	36.38	39.18	39.18	7.7%
世界計					
期首在庫	92.58	100.59	111.78	111.07	10.4%
生産量	378.37	395.91	422.26	422.26	6.7%
輸入量	167.86	170.53	176.40	176.40	3.4%
消費量	315.44	329.78	345.87	345.78	4.9%
輸出量	172.07	172.62	180.20	180.20	4.4%
期末在庫	100.59	111.07	128.50	127.90	15.2%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1: 各国の穀物年度 米国: 9月~翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国: 10月~翌9月。

注2: 消費量は搾油仕向量である。

(同10.5%増)、これに次ぐ米国は1億2111万トン(同6.9%増)、アルゼンチンは5100万トン(同2.0%増)と、いずれも前月から据え置かれた。さらに中国も2070万トン(同0.7%減)と同じく据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7640万トン(同3.4%増)と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン(同3.8%増)と前月から据え置かれた。

消費量(搾油仕向け)は、世界全体で3億4578万トン(同4.9%増)と前月から9万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン(同4.0%増)と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8020万トン(同4.4%増)と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億500

万トン(同2.9%増)、これに次ぐ米国も4967万トン(同7.3%増)と、いずれも据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億2790万トン(同15.2%増)と前月から60万トン下方修正された。これは、23/24年度の期末在庫が70万トン下方修正された影響が大きい。

例年、6月公表の需給予測値では、大きな修正が行われない傾向にあり、今回も、ほとんどの項目が前月から据え置かれる形となった。ただし、輸入量に関して中国に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の大豆輸入量9460万トンとの乖離^{かいり}が注目される。

(調査情報部 横田 徹)

米 国

米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に続き下落

米国農務省世界農業観測ボード(USDA/WAOB)は同日、2024/25年度(9月～翌8月)の米国のトウモロコシ需給見通しを公表したが、すべての数値が前月から据え置かれた(表)。

生産量は、148億6000万ブッシェル(3億7746万トン^(注1)、前年度比3.1%減)。

米国内消費量は、126億500万ブッシェル(3億2018万トン、同0.4%増)。

輸出量は、22億ブッシェル(5588万トン、同2.3%増)。

この結果、期末在庫は21億200万ブッシェル(5339万トン、同4.0%増)となり、前

年度に引き続き高水準が見込まれている。

また、期末在庫率(総消費量に対する期末在庫量)は、14.2%(同0.4ポイント増)と、引き続き前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.40米ドル(713円。1キログラム当たり28.1円: 1米ドル=162.07円^(注2)、同5.4%安)とやや下落が見込まれている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

表 トウモロコシの需給見通し（2024年6月12日米国農務省公表）

	－単位－	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			前年度比 (増減率)
				(5月予測)	(6月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.0	90.0	36.42（百万ヘクタール）	▲4.9%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.1	82.1	33.23（百万ヘクタール）	▲5.1%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	181.0	181.0	11.36（トン/ヘクタール）	2.1%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	2,022	2,022	51.36（百万トン）	48.7%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,342	14,860	14,860	377.46（百万トン）	▲3.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	25	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,727	16,907	16,907	429.45（百万トン）	1.1%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,045	12,555	12,605	12,605	320.18（百万トン）	0.4%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,700	5,750	5,750	146.06（百万トン）	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,855	6,855	6,855	174.12（百万トン）	0.0%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,450	5,450	5,450	138.44（百万トン）	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,661	2,150	2,200	2,200	55.88（百万トン）	2.3%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,705	14,805	14,805	376.06（百万トン）	0.7%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	2,022	2,102	2,102	53.39（百万トン）	4.0%
期末在庫率	(%)	9.9	13.8	14.2	14.2		0.4ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.65	4.40	4.40	28.1（円/kg）	▲5.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

23/24年度トウモロコシおよび大豆の生産量予測、いずれも前年度を下回る

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は6月13日、2023/24年度第9回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した(表、図1～2)。この調査は、春植えの夏期作物(大豆、第1期作トウモロコシなど)や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

表 2023/24年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2022/23 年度	23/24年度			22/23 年度	23/24年度			22/23 年度	23/24年度		
		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率
穀物合計	78,546.6	79,124.6	79,584.2	1.3%	4.1	3.7	3.7	▲ 8.2%	319,811.7	295,448.1	297,544.0	▲ 7.0%
トウモロコシ	22,269.2	20,618.3	20,837.6	▲ 6.4%	5.9	5.4	5.5	▲ 7.5%	131,892.6	111,635.8	114,144.3	▲ 13.5%
第1期作	4,444.0	3,995.4	4,029.9	▲ 9.3%	6.2	5.9	5.9	▲ 4.8%	27,373.2	23,490.0	23,624.4	▲ 13.7%
第2期作	17,192.7	15,990.4	16,152.7	▲ 6.0%	6.0	5.4	5.5	▲ 8.4%	102,365.1	86,155.1	88,116.1	▲ 13.9%
第3期作	632.5	632.5	655.0	3.6%	3.4	3.1	3.7	7.8%	2,154.4	1,990.9	2,403.9	11.6%
大豆	44,080.1	45,733.2	45,978.0	4.3%	3.5	3.2	3.2	▲ 8.6%	154,609.5	147,684.8	147,353.5	▲ 4.7%

資料：CONAB

注1：2024年6月13日公表データ。

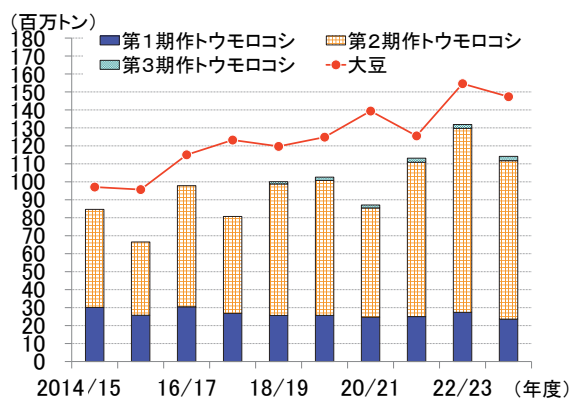
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

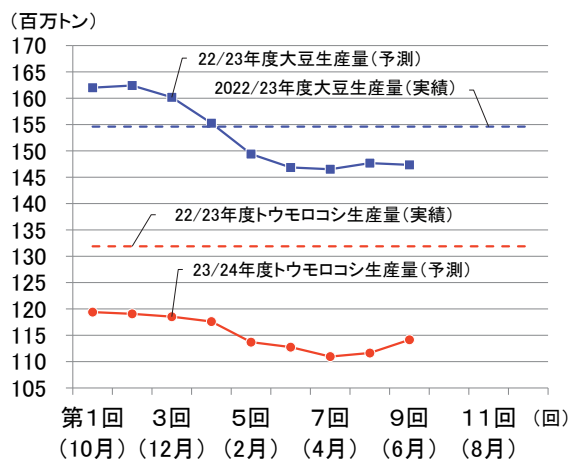


資料：CONAB

注1：2023/24年度は予測値。

注2：2024年6月13日公表データ。

図2 2023/24年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は23年10月公表、以降毎月更新。

23/24年度トウモロコシ生産量、作付面積減少などで前年度比13.5%減の見込み

2023/24年度のトウモロコシ生産量は、前回より250万8500トン上方修正の1億1414万4300トン（前年度比13.5%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、生産者が収益性悪化により作付面積を減少（同6.4%減）させたことに加え、悪天候などで単収が低下（同7.5%減）したためである。

全生産量の5分の1を占める第1期作の生産量は、2362万4400トン（同13.7%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、ほとんどの主産地で天候不順により単収が前年度より低下したことに加え、例外的に生産が回復していた南部リオグランデス州でも、4月末から5月にかけての天候不順により単収が下方修正されたためである。収穫作業は、6月10日時点で作付面積の85.2%で行われ、7月末までに終了することが見込まれている。

全体の4分の3を占める第2期作の生産量は、前回より196万1000トン上方修正されたものの、8811万6100トン（同13.9%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。作付面積（同6.0%減）、単収（同8.4%減）とも前年度をかなりの程度下回り、全体のトウモロコシ生産量の減少につながった。地域別に見ると、最大の生産地である中西部マットグロッソ州、ゴイアス州の一部などでは、生育期間中、降雨に恵まれ単収が増加したため、今回の生産量の上方修正につながった。一方、中西部マットグロッソ州、南東部サンパウロ州、南部パラナ州の一部などでは、降水量が少なく、水不足や高温により単収が低下した。収穫作業は5月に始まり、6月10日時点で作付面積の7.5%が終了した。

また、全体の2%程度を占める第3期作の生産量は、前回より41万3000トン上方修正の240万3900トン（同11.6%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。播種作業はすべての生産地で進行中であり、6月末まで続くと思われる。

23/24年度のトウモロコシ需給は、生産量が減少する一方、国内消費量は引き続き増加（前年度比5.7%増）が見込まれている。

輸出力は、国内需給がひっ迫する中で、米国やアルゼンチンでの豊作を背景に両国からの国際市場への供給量が増加することから、大幅な減少（同38.7%減）が見込まれている。

23/24年度大豆生産量、南部の大雨などで下方修正し前年度比4.7%減見込み

2023/24年度の大豆生産量は、前回より33万1300トン下方修正の1億4735万3500トン（前年度比4.7%減）と前年度をやや下回ると見込まれている。大豆生産量は、悪天候などの影響により初回調査から合計で1464万9900トン（生産量全体の9.0%）下方修正されたが、これまで最大であった22/23年度に次ぐ水準を維持している。収穫作業は、6月8日時点でほぼすべて（作付

面積の99.8%）終了した。

地域別に見ると、南部リオグランデドスル州の大豆生産量は、前回より123万8000トン下方修正の2019万3200トンと見込まれている。同州の大豆生産量は、前回を含めた2回合計で169万4600トン（生産量全体の8.4%）下方修正された。これは、同州で4月末から5月にかけて発生した大雨、洪水の影響により、穀粒の含水率が上昇し、品質の低下や廃棄などの損失が発生したためである。同州の大豆の収穫作業は、災害発生前に作付面積の75%で終了していたことから、大規模な被害は回避されたものの、この災害により同州の大豆の平均単収は1ヘクタール当たり2.99トンとなり、災害発生前から9.0%低下した。

参考1 トウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	7,068.4	▲ 12.7
生産量	87,096.8	113,130.4	131,892.6	114,144.3	▲ 13.5
輸入量	3,090.7	2,615.1	1,313.2	2,500.0	90.4
供給量	105,499.6	129,260.8	141,301.7	123,712.7	▲ 12.4
消費量	71,168.6	74,534.6	79,598.9	84,146.5	5.7
輸出力	20,815.7	46,630.3	54,634.4	33,500.0	▲ 38.7
需要量計	91,984.3	121,164.9	134,233.3	117,646.5	▲ 12.4
期末在庫量	13,515.3	8,095.9	7,068.4	6,066.2	▲ 14.2

資料：CONAB

注：2024年6月13日公表データ。

参考2 大豆需給動向

(単位：千トン)

	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	4,220.8	9,346.7	5,962.1	3,298.2	▲ 44.7
生産量	139,385.3	125,549.8	154,609.5	147,353.5	▲ 4.7
輸入量	863.7	419.2	181.0	800.0	341.9
種子/その他	3,050.3	2,862.5	3,336.7	3,429.4	2.8
輸出力	86,109.8	78,730.1	101,862.6	92,434.4	▲ 9.3
加工量	45,963.0	47,761.0	52,255.0	52,530.2	0.5
期末在庫量	9,346.7	5,962.1	3,298.2	3,057.8	▲ 7.3

資料：CONAB

注：2024年6月13日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年5月の国産トウモロコシ価格、
需要増などからわずかに上昇

中国農業農村部は6月24日、「農産物需給動向分析月報（2024年5月）」を公表した。この中で、24年5月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、国内の生産地では、価格の下落を嫌って出荷調整などが行われている一方、需要面では加工企業の工場稼働率が比較的高い水準で推移し、また、飼料企業各社が在庫を積み増しているとされる。このため、市中在庫は若干減少しており、短期的な価格はわずかな上昇が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、主要な養豚生産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、24年5月が1キログラム当たり2.18元（49円：1元＝22.34円^{（注）}、前月比1.9%高）とわずかに

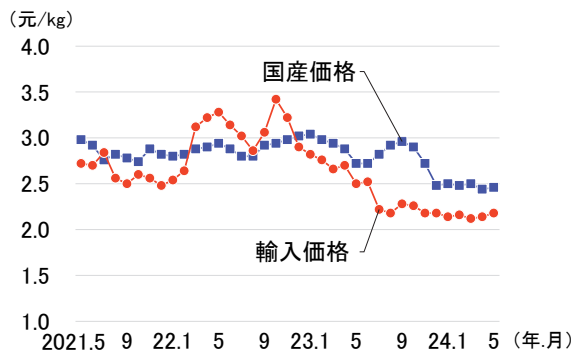
上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.46元（55円）となったことで、輸入と国産との価格差は前月の同0.30元（7円）から同0.28元（6円）に縮小した。

24年5月の国産大豆価格、需給は緩やかながらも前月同

2024年5月の国産大豆価格は、3カ月続けて同額となった（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では備蓄大豆の放出開始もあり、市場供給量は安定している。需要面では各地で気温が上昇し大豆商品の消費は落ち込みつつあるが、搾油大手による買い入れが続いていることで、国産大豆価格は安定している。短期的には、引き続き一定の供給と需要が見込まれることで、需給は緩やかながらも、安定した価格の推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年5月が1キログラム当たり4.64元

図1 トウモロコシ価格の推移

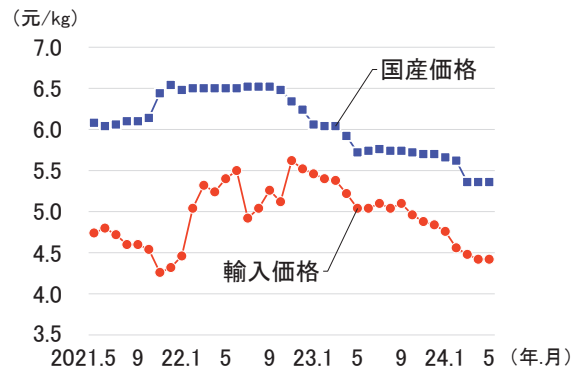


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

(104円、前年同月比8.6%安)と前年同月をかなりの程度下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.36元(120円、同6.3%安)と前年同月をかなりの程度下回った。同月の輸入大豆価格(山東省青島港引き渡し価格、課税後)が同4.42元(99円)となったことで、輸入と国産との価格差は前月と同じく同0.94元(21円)となった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて低い水準にある。24年(1~4月)の輸入量は2715万トン(前年同期比2.9%減)、輸入額は同19.6%減の148億1100万米ドル(2兆4004億円:1米ドル=162.07円^(注))と報告されている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年6月末TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)